

厚木えんかん(厚木演劇鑑賞会)

2013年度 臨時サークル懇談会資料

【開催期間】 2013年10月16日(水)～18日(金)

「臨時サークル懇談会」開催にあたって

今年7月に、恒例のサークル懇談会を開催しました。

厚木が加盟している、神奈川ブロック(神奈川県演劇鑑賞団体連絡会)では、演劇鑑賞会の厳しい状況を乗り越えていくために、運営サークルを本流にし、劇団と協力しながら、ブロックを共同体として活動を進めていくことになりました。

こうしたブロックの活動の中で、厚木えんかんは財政状況を鑑みて、ブロックの統一例会(年6作品)に、「2作品に参加し、残りの3作品を厚木独自の小ホール例会に」と提案しましたが、過半数の賛成が得られませんでした。そこで幹事会としては、懇談会で出された意見を元に、ブロックや劇団と相談し、新たな例会レパートリーを再提案することにしました。現状は厳しいけれど、演劇から元気をもらって、前を向いて笑って、厚木えんかんの発展に向けてみんなで協力していきましょう。

懇談会には、この資料と、『ステージ7号』をご持参下さい。

【日時】	10月	16日(水)	17日(木)	18日(金)
	10時半～12時			
	2時～3時半			
	6時半～8時			

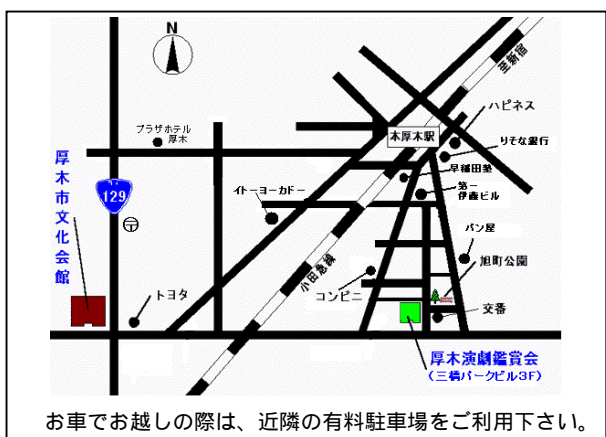
【会場】 厚木えんかん・事務所

〒243-0014 厚木市旭町 5-43-1 三橋パルクビル 305 TEL046(228)9325 FAX(228)9349

E mail / atsugi-enkan@ga2.so-net.ne.jp HP / www.enkan.org

サークル懇談会の内容

1. 2014年の例会レパートリーの再提案
2. その他
3. 「サークル検討結果報告」の提出



1. 2014年度「例会レポーター」の再提案

(1) 厚木えんかん例会レポーター作品の提案について

神奈川ブロック例会レポーターは、例会企画資料「ステージ」を基に行います。厚木えんかんで、再提案された年間レポーターについて、サークルで話し合っ、サークル懇談会に検討結果をお持ち下さい。

サークル懇談会の結果を受け、その後、劇団やブロックと相談して、会場確保を進めていきます。

第154回例会 劇団文学座公演

く に こ

作 / 中島淳彦 演出 / 鶴山 仁

【日時】2月28日(金)6:30・3月1日(土)2:00

【会場】海老名市文化会館・大ホール



ホームドラマの名作を遺した脚本家で作家の向田邦子の前半生をモチーフに、彼女が作家になる要素と、向田作品のオマージュを含んだ、おかしくも哀しい人間物語です。

厚木えんかん・2014年度「例会レポーター」案

第155回選択例会 松元ヒロ公演

松元ヒロ・ソロライブ

作・構成・主演 / 松元ヒロ

【日時】4月・昼夜2ステージ公演予定

【会場】厚木市文化会館・小ホール



俳優座劇場公演

音楽劇 わが町

作 / ソートン・ワイルダー

主演 / 土居裕子・原康義

【会場】海老名市文化会館 ほか

第156回例会 劇団東演公演

ハムレット

作 / シェイクスピア 演出 / ヘリコ・グッチ

【日時】6月・昼1ステージ公演予定

【会場】厚木市文化会館・大ホール



今回の舞台は、いままでの常識をはるかに超えるスペクタクルとしての迫力。舞台狭しと疾走する俳優たち、闇と光と音楽が見所な作品。

第157回選択例会 萩生田千津子公演

朗読と音楽の調べ

出演 / 萩生田千鶴子 ほか

【日時】9月・昼夜2ステージ公演予定

【会場】厚木市文化会館・小ホール



テアトルエコー公演

風と共に来たる

作 / ロン・ハッチソン

主演 / 安原義人・後藤敦

【会場】海老名市文化会館 ほか

第158回例会 劇団朋友公演

真砂女

作 / 瀬戸口都 演出 / 西川信廣

【日時】11月・夜1ステージ公演予定

【会場】厚木市文化会館・大ホール



96歳までの生涯で、恋の句一筋に詠み続け、数々の句を残した、情熱の女流詩人「真砂女」。彼女の流転と波乱の人生を描いた作品。

第159回例会 劇団前進座

芝浜の革財布・舞踊 三番叟

作 / 三遊亭圓朝 演出 / 中橋耕史

【日時】2015年2月・夜1ステージ公演予定

【会場】厚木市文化会館・大ホール



落語でお馴染みの三遊亭圓朝の人情話。前進座得意の世話物歌舞伎で舞台化。三番叟は、古来初春の声。新春にふさわしい舞踊です。

(2) 厚木えんかん2014年例会レポーターの再提案の理由

7月「サークル懇談会」で提案した例会レポーター提案について

2014年レポーター提案にあたり、6月例会『どろんどろん』で、「ステージ7号」と「レポーター提案とその理由」と「提案に対する意見提出用紙」を全会員に配付し、サークル懇談会で提出を受けました。

神奈川ブロックでは6作品を例会レポーターとして提案し、厚木えんかんの方針も「ブロックの6作品の実現をめざす」としていましたが、来年度については、厚木はブロック作品は2作品、あとは実際に幹事が観て良かった小ホール作品3作品を提案しました。その理由は、会員数の減少、海老名が厚木会場での合同例会の解消を決めた事、が大きな要因です。

しかし、この提案の承認は81(32)サークル中、24(4)サークルに留まり(カッコの数字は未サークル)、幹事会では、この数字ではサークルとの合意を得られたとは言えず、懇談会で出された様々な意見を元にし、神奈川ブロックや劇団と相談しながら、何よりこの現状を会員みんなで共有し、会員の減少をくい止めて会員増に会員みんなで取り組む事を前提に、新たなレポーター提案をするに至りました。

《懇談会で出された主な意見》

これまでの小ホール作品は良かった。小ホールは舞台との一体感がある。自分が知らない舞台との出会いが楽しみ。厚木の小ホールと神奈川ブロックの他作品を選べるし、また両方観られるので良いと思う。会費を値上げ(2400円 3000円)にしても、大ホール作品を。3本小ホールだと、新しい会員を誘いにくい。大ホール1本増やすために、家族会員の一人目は一般と同じで、二人目から2000円にしたらどうか。小ホール3本は厳しい気がする。演鑑としての主旨を考え直す時期の様な気がしないでもないです。そのために、家族会費の値上げも検討の一つに入れ、例会作品のレポーターを決めて頂きたい。小ホールにあまり魅力を感じないので3回を1回にして大ホールの演劇を見たいと思います。演鑑を辞めてしまう人が増えるのではないかと危機感を感じます。小ホールの上演が3回も続かないようにして欲しい。そのための家族会員の会費については段階的に、値引きをなくしていけば良いと思う。年4回で、大ホールの演劇が増える方がいいかな? 小ホールだと舞台装置が淋しく感じる。等々

(3) 厚木えんかん2014年例会レポーターの再提案を実現するために

現するためには、会員数の回復が不可欠です。

2014年例会レポーターを、年平均会員数550名(8/31現在の会員数は543名)で試算しますと、約150万円の赤字予算となってしまいます。そこで、赤字予算とならないために、下記の二つの提案をし、検討したいと考えています。

-) 現行会費のまま、来年2月例会『くにこ』までに、会員数を605名に回復する事。
-) 現在、家族会員は100組います。1組あたり400円の値上げ(1人目は一般会員として2,400円にし、2人目からは従来通りに家族会員として2,000円)をした上で、来年2月例会『くにこ』までに、会員数を580名に回復する事。
(ちなみに今年2月例会『夢千代日記』の会員数は582名でした。)

厚木えんかん単独での小ホール公演の例会は、ブロック例会との選択例会とします。

提案している例会レポーターの小ホール公演は厚木えんかんの独自作品です。ブロックでは別な作品が例会となっていますので、厚木で見逃しても他鑑賞会へは観に行くことができません。

また、小ホール作品は演劇ではないので(舞台芸術の一つですが...)、この時期のブロック例会とを選んで観られるようにします。また、両方観たいという場合は、2,000円の追加会費を納めて頂きます。

2. その他

(1)「会費引落とし制度」「振替券制度」について

演劇鑑賞会は、例会を行うための費用を、会費を「持ち寄る」ことで賄っています。

その「持ち寄る方法」について、厚木えんかんも創立当初から他の鑑賞会同様に、サークル代表者がサークル会員から会費を集めて、毎月事務局に会費を納めに行き、例会月には座席券を代表者がサークル会員に手渡すという方法を行ってきました。しかし、サークル代表者が未収の会員の会費を立て替えたりという負担が生じて、サークル代表者が辞めてしまうとサークルごと退会するという事態を解消するために、15年前に、「持ち寄る方法」を、「引き落とし」という方法に変えました。神奈川ブロックで、引き落としを行っているのは厚木だけで、全国では4～5団体が引き落としを行っています。

今、神奈川ブロックから指摘を受けているのは、引き落としによって、事務局とサークル、またサークル内の会員どうしのコミュニケーションが薄れることで、「必要なものは全て会員が持ち寄る対等平等な関係」という意識が希薄になっていないかということです。

現在、会員の7割以上は以前の「持ち寄り方法」を知りません。7月の懇談会では、参加者のほとんどが現行の持ち寄り方法の維持を望む声が出されました。

また、「振替券制度」については、会員以外の方が例会に参加するということは「お試し券」と変わらないので、厚木以外の鑑賞会は数年前にやめています。7月の懇談会では、例会欠席者のほとんどがこの制度を利用していないので、やめた方がいいとの声が多数を占めました。

以上の2点について、懇談会での声を反映して以下の提案をします。

会費の「持ち寄り方法」について

現行の「引き落とし制度」は維持し、毎月事務局に会費を納めに来て良いというサークルは、サークル代表者が、会費引落日に会員の会費を集めて、事務局に納めに来てもらう（その場合「引落とし郵送手数料」の100円は免除となります）。という二つの方法を併用できるようにします。

「振替券制度」について

前文にもありましたが、懇談会でも不要論の声が多く、実際に利用している会員は、欠席会員の2%前後であるため、「振替券制度」は廃止します。

(2)厚木えんかんの未来を輝かせるために...

「広場に杭を立てよう 花を飾ろう それが祭りになる」 哲学者ルソーの言葉です。今もなお上演され続けている、劇作家・宮本研が書いた『美しきものの伝説』（1968年文学座初演）の最後のセリフにもこの言葉が引用されています。

厚木という広場に、演劇鑑賞会という「杭」を立てたのは今から28年前でした。その「杭」を囲んで、日常生活を豊かにする演劇を鑑賞する楽しい「祭り」（＝例会）が始まりました。

この「杭」を支え続けてきたのが「運営サークル」です。そして、厚木に立った「杭」に「花」を飾りに来てくれるのが、劇団の皆さんです。「杭」は一握りのサークルで支えられることはできません。「祭り」のたびに、運営サークルが交替して、次のサークルにバトンタッチしながら、28年間支え続けてきました。さすがに28年もたつと「杭」も弱ってきて、「祭り」の回数も減ってきました。けれどもこの「杭」が倒れたら、「祭り」が無くなってしまいます。

最近「祭り」に若い人たちが少ないね、という声が良く聞かれます。今は「祭り」に来なくても「杭」が立っていれば、いずれ「祭り」に来てくれるはずです。

今、「杭」を支えるには厳しい環境で、力も弱っています。けれどこの「杭」を支える人が一人でも二人でも増えていけば、支える力を分け合って強くなっていくことができます。

「鮎祭り」に負けない、老若男女がたくさん参加する厚木えんかんの「祭り」を賑やかにする未来予想図を会員みんなで描いていきましょう。杭に花を添えてくれる劇団に感謝しつつ...

サークル検討結果報告 サークルで1部を提出

代表者の方は、サークルの意見をまとめて懇談会出席後に提出して下さい。

(欠席の場合は10月18日(金)までに郵送またはFAXして下さい。)

サークル	サークル名	サークル代表者名
------	-------	----------

(回答) 2014年度「例会レポーター再提案」について、承認を...

・する

いずれかに をしてください

・しない (理由.....)

(回答) 来年の運営サークルで担当したい例会はどれにしますか？

あなたのサークルで、来年の運営サークルとして担当したい例会を、
第1希望、第2希望まで選んで、それぞれに一つマルをつけて下さい。

7月の懇談会で提出済みのサークルも、改めて再提出をお願いします。

例会月	例会作品名	第1希望	第2希望
2月	第154回例会 / 劇団文学座公演 『くにこ』		
4月	第155回選択例会 / 松元ヒロ公演 『松元ヒロ・ソロライブ』		
6月	第156回例会 / 劇団東演公演 『ハムレット』		
9月	第157回選択例会 / 萩生田千津子公演 『朗読と音楽の調べ』		
11月	第158回例会 / 劇団朋友公演 『真砂女』		

(回答) 昨年度の例会で、最も心に残った作品はありますか？



創造団体名	作品名	創造団体名	作品名

(回答) 今後、例会で見たい作品はありますか？

創造団体名	作品名	創造団体名	作品名

サークル懇談会についてのご意見をお書き下さい。

厚木えんかん・2014年・小ホール例会検討作品

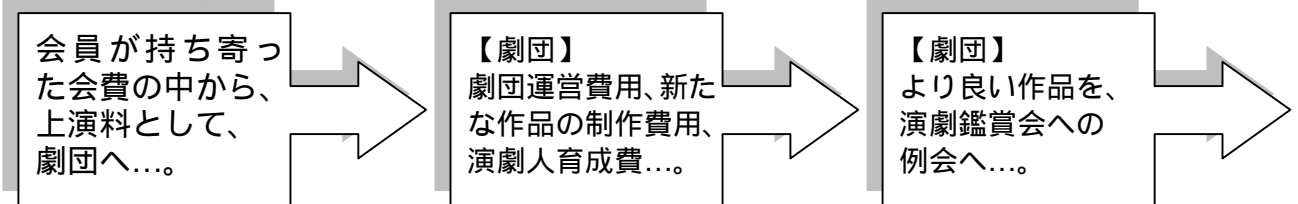
<p>松元ヒロ公演</p> <p>松元ヒロ・ソロライブ</p> 	<p>2012年4月、第145回例会として小ホールで行われた『松本ヒロ・ソロライブ』は、大変好評で、今でも運営サークルの自己紹介の場で、「もう一度見てみたい」という声が数多く聞かれます。社会風刺コントで活躍している「ザ・ニューズペーパー」の創立メンバーの一人でしたが、現在はソロで、鋭い社会風刺のスタンダップ・コメディや、プロとしてのパントマイムを披露して、故立川談志や志之輔、永六輔、から高い評価を得ています。</p>
<p>萩生田千津子公演</p> <p>朗読と音楽の調べ</p> 	<p>元文学座の女優であった萩生田千津子さん。不慮の事故で全身不随となり、女優の道を断念しましたが、作家・水上勉氏の励ましにより「車椅子の語り部」として、創作民話(語り芝居)・童話の語り手として活躍しています。また、厚木えんかん創立時には、市内の病院や企業廻りをして、大きなご尽力を頂きました。公演は様々な音楽とのコラボレーション形式で行い、昨年は海老名演鑑の25周年記念公演として、高い評判を得ました。美しい音楽と素晴らしい語り芝居が堪能できます。</p>

私たち一人ひとりの会費が、劇団を応援しています...

私たちの会費は、一般の入場料ではありません。会の日常運営費(事務所の家賃や人件費や事務用品費など)と、例会を行うための例会経費(上演料や会場費など)を賄うために、会費を持ち寄っています。そしてその上演料が、劇団の作品創造活動の応援費用になるのです。

商業演劇の入場料との大きな違いは、私たちの例会に来てくれる劇団は基本的に非営利の団体で、劇団にお渡しする上演料は、その例会作品に対しての費用ではなく、劇団の運営費用としてお支払しています。他方、商業演劇の入場料は、その作品を大規模な宣伝費をかけ、会社の利益を確保し、出演者やスタッフに分配されて終わりです。劇団は、運営費用で新たな作品を作りながら、俳優や演出家、照明や音響や舞台監督などのスタッフも育てています。会員が増えることは会費が増える事です。そうなれば、ひとつでも多くの劇団へ上演料が払え、また上演料を遅配、減額することなくできるので、よりよい作品作りへの応援につながるのです。

【演劇鑑賞会の会費の場合】



【商業演劇の入場料の場合】

